

ボッチャ 投球指示盤

対象の児童・生徒

- ・脳性まひ等で不随意運動がある児童・生徒
- ・ボッチャをする際に手投げではなく、ランプ(スロープ)を使用して投球する児童・生徒

ねらい

- ・ランプを使用する際、介助者に意図を正確に伝える支援をする。
- ・意図が正確に伝わることにより、関心・意欲や主体性が向上する。
- ・ボッチャコートのどこに投げるかなど具体的にねらいをもつことを支援し、理解が深まる。

教材の使い方 (または作り方)

【作り方】

- ①プラスチックの下敷きに油性ペンでボッチャコートを書き、その中にマス目などを設ける。
- ②使用する生徒の実態に応じて、必要な情報をラベルで印刷し、貼る。

【使い方】

- ①介助者は投球指示盤を児童・生徒に提示する。
- ②以下の方法で、児童生徒と意思疎通を図る。
 - A. 児童・生徒が、自分がボールを投げたい位置を指さしで指示し、介助者と確認する。
 - B. 児童・生徒が、自分がボールを投げたい位置の文字や数字を発声で読み上げて指示し、介助者と確認する。
 - C. 介助者が、文字や数字を順番に指示盤を指さす。児童・生徒は、介助者の指さす位置が自分がボールを投げたい位置と一致した際に、タイミングよく頷く、声を出すなどして指示し、介助者と確認する。

【ボッチャ 投球指示盤の例】

使用する児童生徒の実態に応じて、指示盤内の情報量の調整、内容の工夫などを行う。

